

令和5年度決算報告

令和5年度一般会計の収入額は55.8億円(前期末支払資金残高29.1億円。うち約22億円が貸付事業の原資分)、支出額は27.7億円でした。

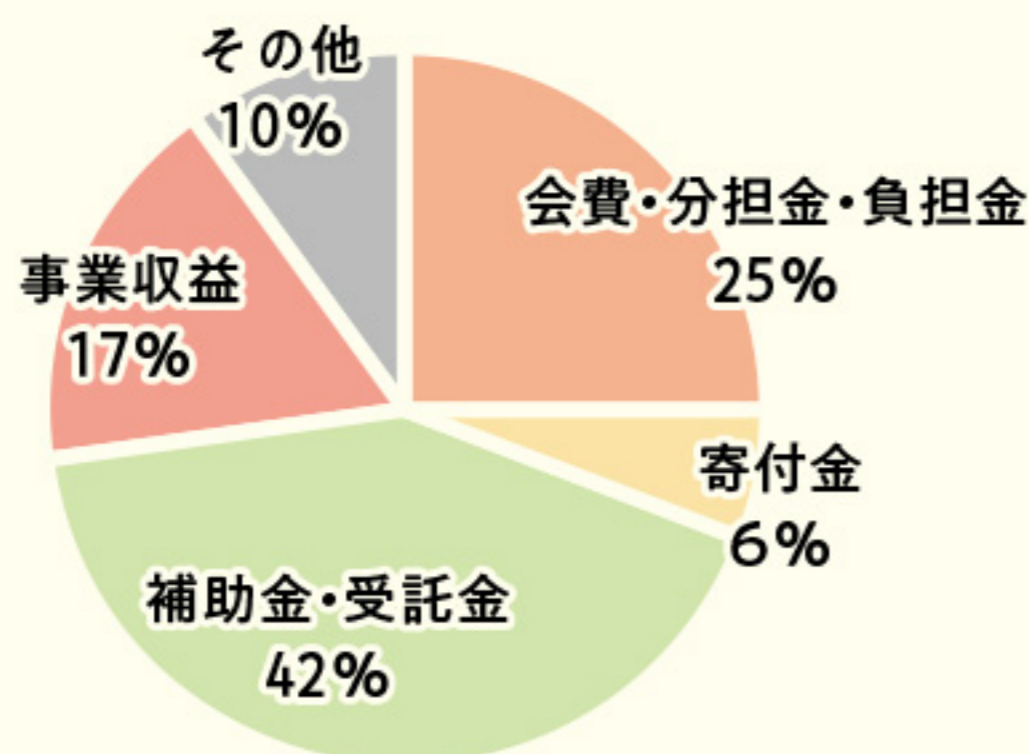
令和5年度は、新たな事業として、大阪府福祉基金地域福祉振興助成金400万円を活用して、学生や保護者、教員向けの動画を制作・配信し、福祉への理解促進を図りました。

また、能登半島地震の災害ボランティアセン

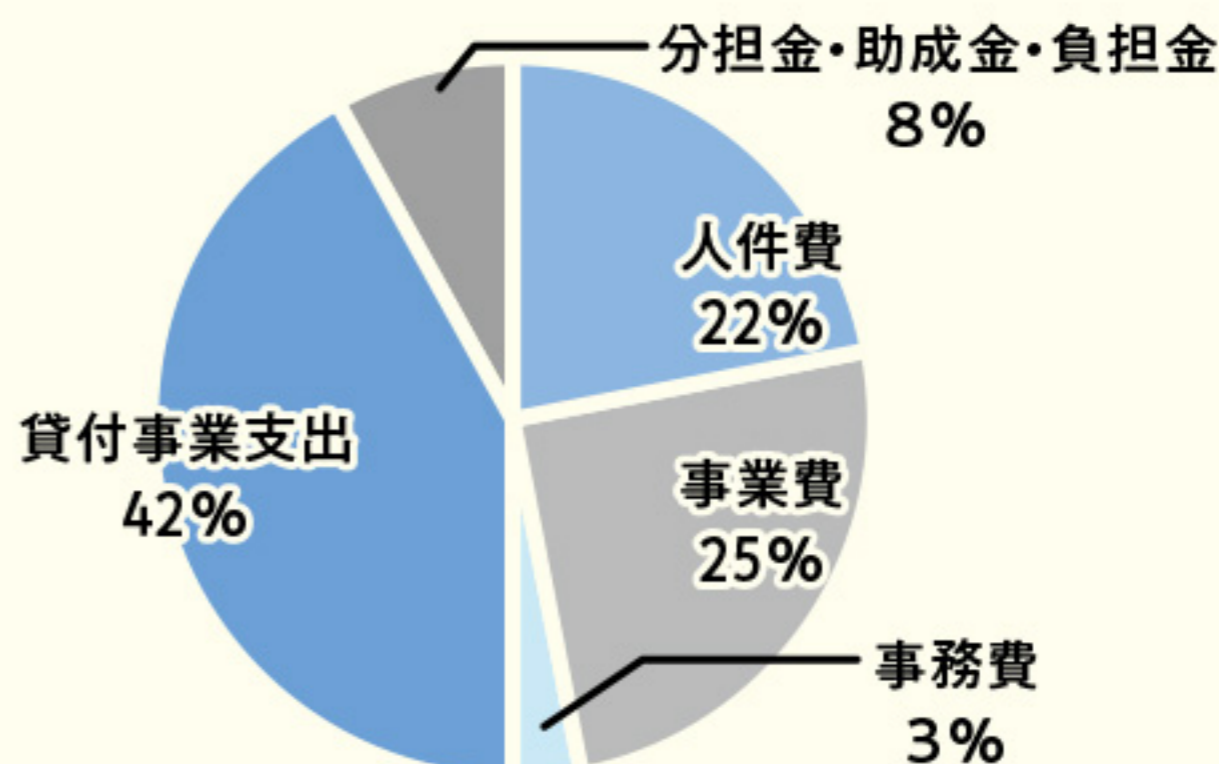
ターの運営支援を目的に職員派遣を行い、その経費120万円を支出。災害救助事務費として申請中です。

さらに、本会の拠点である大阪社会福祉指導センターについては、長期修繕計画をもとに竣工当時から設備であった高置水槽や受水槽、その他の給排水設備などの更新工事(約4,000万円)を行いました。

● 事業活動収入の内訳



● 事業活動支出の内訳



地域の人に守られながら、教訓を後世に伝えている。(大阪市浪速区)



この津波は安政南海地震津波と呼ばれているよ。
 当時から大阪は水の都と呼ばれるほど川や橋が多く、発達した水路を船が行き交っていたんだ。一度目の

その想いを受けて、160年以上たった今も、毎年地蔵盆にあわせ、地域の方々によって文字に「墨入れ」をされ大切に受け継がれているよ。
 こういった災害の記録を伝える石碑は「自然災害伝承碑」として令和元年から地図記号が新たに作られているんだ。過去の記憶を未来に活かせるよう探してみよう！

ふくしを巡る

No.21

歴史探訪

黒い墨で語り継ぐ津波の教訓

京セラドーム大阪を臨む大正橋の東側の橋詰に、石碑が建っている。
 これは、「大地震両川口津波記石碑」といって、地震と津波の犠牲となった人々の慰霊と被害を後世に語り継ぐことを目的に建てられたんだ。
 安政元年(1854年)11月4日と5日に、現在の大阪市に大きな地震が続けて起こり津波が押し寄せた。この津波は安政南海地震津波と呼ばれているよ。
 当時から大阪は水の都と呼ばれるほど川や橋が多く、発達した水路を船が行き交っていたんだ。一度目の

地震の後には地震の揺れや火災から逃れるために、大勢の人が川船に避難したよ。でもその翌日、二度目の地震で津波が起きたため、橋は落ち、大きな船は押し流されて小舟にいた人々の命を奪い、多くの死者が出る甚大な被害となってしまったんだ。
 実はその148年前の宝永四年(1707年)に起きた宝永地震でも同じ被害があったにも関わらず、悲劇が繰り返されてしまったんだ。
 石碑には被害の詳細や日頃の準備を怠らないこと、地震の後には津波が来ることを記されている。また「願わくハ、心あらん人、年々文字よミ安きやう、墨を入給ふべし」とあり、年月の経過とともに語り継がれることがなくなり、忘れ去られるから、文字が読みやすいよう毎年墨を入れて欲しいと刻まれているんだ。

